

大学生における時間選好率と成績の関係

西川将平

要約

本稿の目的は大学生の成績や大学生活と時間選好率、時間整合性がどのような関係があるのかを明らかにすることである。執筆者や所属しているゼミの担当教員の Twitter から呼びかけたアンケートの結果から 1.時間整合性がある学生の方が成績は良い、2.講義で前に着席する学生の方が成績は良く、3.中心に座る学生の方が成績は悪いという 3 点の結果が出た。

a

JEL 分類番号： D91

キーワード：時間選好率、時間非整合性、成績、大学生、大学生活

a 立命館大学生総合心理学部 cp0020pf@fc.ritsumeai.ac.jp

1. 目的・仮説

本稿の目的は大学生の成績や大学生活を時間選好率とどのような関係があるのかを明らかにすることである。大学生活の中で学業の成績は重要である。学業の成績が悪いと、留年や就職活動、大学院への内部進学などへの悪影響が想定されるので、やはり成績は重要といえる。しかしながら一定数の学生は成績不振に陥っているのが現状である。本研究ではこうした学生を「時間選好」の観点から分析する。その理由は、成績不振の原因と想定される提出物の提出率や講義への出席率の低さ、テスト勉強の不十分さなどの要素が「先延ばし行動」と関係しているように考えられる。「先延ばし行動」とはやらなければいけない課題を先延ばしにして今の楽さを求める事であり、時間選好率や現在に偏向する性質である現在バイアス性と関連する。したがって成績と時間選好率や現在バイアス、時間非整合性が相関している事を仮説とする。その他にもテスト勉強を始めるタイミングや講義での着席位置などのデータを取り、それらと成績や時間選好率の関係も明らかにしていく。

2. 方法

グーグルフォームを利用して作成したアンケートを執筆者や所属しているゼミの担当教員の Twitter からアンケートの回答者を募り、回答者は 31 名である。アンケートは基本情報に関する質問 (図 1)、大学生活に関する質問 (図 2)、時間選好率に関する質問の 3 つに分けられており時間選好率に関する質問では Coller and Williams (1999) に代表される Multiple Price List (MPL) 法を用いた。それぞれの質問は選択式で行った。表 1 の基本情報に関する質問のその他の項目はすべて記述式で行った。表 1 の 7 で評価制度が 5 以外の回答をした学生に関しては GPA を立命館大学基準に考え繰り上げている。

表 1 基本情報に関する質問

1. 性別	(男性・女性・その他)
2. 年齢	(18・19・20・21・22・その他)
3. 立命館大学生ですか?	(はい・いいえ)
4. 総合心理学部生ですか?	(はい・いいえ)
5. 日本語が母国語ですか?	(はい・いいえ)
6. 体育会系の部活に所属していますか?	(はい・いいえ)
7. 立命館大学生以外の方へ あなたの大学の評価制度は何段階ですか?	(1・2・3・4・5)
8. どのようにしてこの調査を知りましたか?	(調査者から直接聞いた・調査者の SNS を見た・調査者のゼミ (指導教員) の SNS を見た・授業.ゼミで宣伝を聞いた・総合心理学部の web 掲示板を見た)

表2 大学生活に関する質問

1. あなたは何回生ですか？	(1・2・3・4・5・6・それ以上)
2. 前学期までの累積 GPA に最も近い値はいくつですか	(1.0・1.5・2.0・2.5・3.0・3.5・4.0・4.5・5.0)
3. 講義を受ける時、あなたはどの位置に着席することが多いですか？	(1・2・3・4・5・6)
4. テスト勉強を始める時期はいつごろですか？	(当日・前日・3日前・一週間前・二週間前・それ以上)
5. レポート課題を始める時期は提出期限から考えるといつごろですか？	(当日・前日・3日前・一週間前・二週間前・それ以上)
6. A ノートを購入したことがある。	(ある・ない)
	全く思わない とても思う
7. あなたは自身の成績が良いと思う。	(1・2・3・4・5)
8. 授業の出席率は良いほうである。	(1・2・3・4・5)
9. 授業内ではスマホをよく使う	(1・2・3・4・5)
10. 授業は友人と受けることが多い	(1・2・3・4・5)
11. 朝寝坊で登校できない時がある	(1・2・3・4・5)
12. 計画性の無さで困ることが多い	(1・2・3・4・5)
13. リフレクションなどの普段の課題の提出を 忘れてしまうことが多い	(1・2・3・4・5)
14. 様々な期限に追われることが多い	(1・2・3・4・5)

表3 時間選好率に関する質問

組み合わせ1	(今日 3000 円もらう・7 日後 2500 円もらう)
組み合わせ2	(今日 3000 円もらう・7 日後 2900 円もらう)
組み合わせ3	(今日 3000 円もらう・7 日後 3000 円もらう)
組み合わせ4	(今日 3000 円もらう・7 日後 3050 円もらう)
組み合わせ5	(今日 3000 円もらう・7 日後 3100 円もらう)
組み合わせ6	(今日 3000 円もらう・7 日後 3200 円もらう)
組み合わせ7	(今日 3000 円もらう・7 日後 3500 円もらう)
組み合わせ8	(今日 3000 円もらう・7 日後 4000 円もらう)
組み合わせ9	(今日 3000 円もらう・7 日後 5000 円もらう)

表3の時間選好率に関する質問ではこれらの質問の日にちを左側の選択肢を90日後、右側の選択肢を97日後に変更して調査を行った。90日後の時間選好と現在の時間選好を比べることによって現在バイアス性を調べるのが目的である。

3. 結果

アンケートを取った29名の基本情報が表4である。本稿では相対的に時間選好率を求め、その分布を表したのが図4である。図4で横軸は時間選好率となっており、最も多い「3」が、組み合わせ2から3のタイミングでAからBに移った被験者である。そして90日後と97日後の時間選好の分布を図2である。これらを比較するとばらつきが最も平均的な回答である「3」に集まった。そして図1の数値と図2の数値が一致していない人を時間整合性が無いとし、時間整合性がある人と無い人のGPAの平均を比べた。その結果が表5であり、時間整合性がある人の方がややGPAの平均が高くなった。講義の着席位置ごとにGPA平均値を求めたものを表5にまとめた。前(1・2・3)に着席している学生の方がGPA平均値は高くなり、左右(1・3・4・6)と中心(2・5)を比べると左右のGPA平均値が高くなった。

表4 基本情報

性別	男性	17
	女性	12
年齢	19	1
	20	1
	21	14
	22	13
	23	0
立命館大学生ですか	はい	22
	いいえ	7
総合心理学部生ですか？	はい	7
	いいえ	22
どのようにして調査を知ったか	調査者から直接聞いた	1
	調査者のSNSを通じて	25
	監督者のSNSを通じて	3

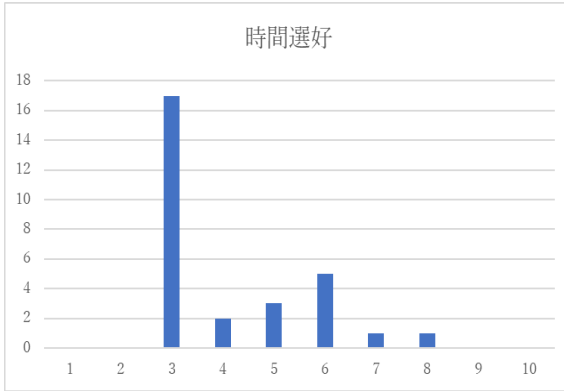


図1 時間選好率のデータ分布

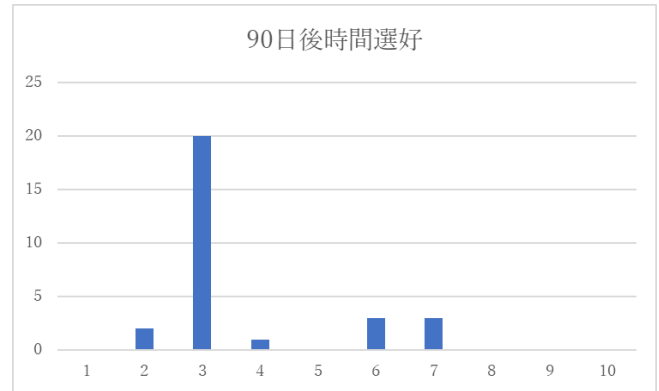


図2 90日後の時間選好率のデータ分析

表5 時間整合性と GPA 平均値

	GPA 平均値
時間非整合性	2.96
時間整合性	3.27

表6 着席位置と GPA 平均値

	GPA 平均値
前 (1・2・3)	3.22
後ろ (4・5・6)	3.04
左右 (1・3・4・5)	3.35
中心 (2・5)	3

4. 考察

図1のデータから図2のデータにかけてデータが変化している原因として時間非整合性が考えられる。表5をからその時間整合性が無い学生の方が GPA 平均値は低くなったことが分かる。時間整合性が無い学生が、「今」楽をする選択を取ってしまうことで提出物やテスト勉強に遅れが生じ、成績が下がる一因となっているのだろう。

着席位置と GPA 平均値の関係はそれぞれ前後では前、左右と中では左右の方が高くなった。意欲のある学生は、板書が見やすい前部に着席することが想像出来るが、板書が見やすい中に座る学生が左右の学生よりも GPA 平均値が低かったことは意外だった。原因としては友人と講義を受ける事や真ん中の前に座るのが恥ずかしい事など、様々な事が挙げられるだろう。

引用文献

盛本 晶子 (2018) 時間選好率および現在バイアス性が オンラインゲーム内コンテンツ
への課金行動に与える影響. 行動経済学. 第 11 卷, 1-13.

*Coller, M. and M. B. Williams, 1999. Eliciting individual discount rates. Experimental
Economics, 2, 107-127.*